

## まごだ 孫田遺跡

**所在地** 豊田市下山田代町孫田地内  
(北緯 35 度 1 分 32 秒  
東経 137 度 19 分 38 秒)

**調査理由** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成  
事業

**調査期間** 平成 26 年 5 月～平成 26 年 8 月

**調査面積** 1,550 m<sup>2</sup>

**担当者** 成瀬友弘・鐸木厚太

**調査経過** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。孫田遺跡では、範囲確認調査において古代や近世の遺物が確認されたことにより、今回の調査が行われた。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

**立地と環境** 孫田遺跡は、豊田市南東部を流れる郡界川の支流の一つである沖川の東岸丘陵部に位置し、沖川に向かって東流する谷川の深部に立地する。調査区の地形は、東部の平場と北部から西部にかけて広がる斜面地に大別され、高低差は約 15m である。周辺の遺跡としては、孫田遺跡が立地する斜面地の稜線上に丸山 D 遺跡、谷川を挟んだ南に栗狭間遺跡、東に鶴ヶ池遺跡が存在する。

**調査の概要** 遺物の出土状況から、孫田遺跡では縄文時代、古代、近世及び近代の 3 つの時期があることを確認した。主な遺構としては、古代の灰釉陶器を伴う竪穴建物や土坑などの他、近世から近代にかけて構築したとみられる炭焼窯、溝などを検出している。

孫田遺跡の斜面地の基本層序は、薄い黄褐色シルト、地山である。平場は埋没した谷の堆積で形成されている。平場の基本層序は、表土、黄褐色シルトとオリーブ色シルトの互層、灰オリーブシルト層、そして黒褐色土層である。灰オリーブシルト層は古代、黒褐色土層は縄文時代の遺物を包含する。本調査では、範囲確認調査の結果と層序を踏まえて 2 面の検出面を設定した。第 1 検出面は地山及び黒褐色土層上面、第 2 検出面は黒褐色土層除去面である。以下、各面における調査概要を報告する。

**1 面の調査** 1 面では、古代、近世及び近代の遺構検出を行った。

古代の遺構は、調査区全域で検出できたが、特に、斜面及び平場との転換部である緩斜面上に多い。主な遺構は、竪穴建物 1 棟、多数の土坑などである。竪穴建物 (022SI) は西部の斜面地で検出している。形状は約 2.5m×2.0m の隅丸方形である。竪穴建物の内部構造は、柱穴や壁溝等が存在せず、斜面に対して垂直方向にカマドが北東壁に取り付く。このカマドは、花崗岩を使用した石組みの可能性が高く、石材や周辺の土には被熱した痕跡が認められた。カマド周辺では灰釉陶器の椀・皿類や甕が出土していた。土坑の多くは緩斜面地で検出している。036SK からは遺物が多く出土し、椀・皿類の他に外面底部に墨書された灰釉陶器を確認している。この他に、特徴ある遺構としては焼土を含む土坑 3 基 (049SK、050SK、076SK) を検出している。

また、調査区南東部付近では古代の遺物を多く包含した層を確認している。遺物は、灰釉陶器の椀・皿類に加え、壺や瓶、緑釉陶器などが出土し、周辺から流れ込んだ可能

性が高い。平場での遺構が希薄なのは、運ばれた土砂によって谷が埋没した経緯があるため、土地が不安定な場所であるという環境的条件によるものと考えられる。

近世及び近代の遺構は、炭焼窯や溝などがあり、調査区全域で検出された。特に、北西部の斜面で炭焼窯が集中している。炭焼窯は 9 基検出し、地面に半球状の土坑を掘り窪めたタイプを 4 基、粘土などで壁や天井を構築した煙道と焚口を持つタイプを 5 基確認した。このうち、007SY は焼成室と煙道を仕切るための石組みを使用していた。071SD、074SD は同一の溝の可能性が高い遺構として検出された。遺構埋土からは近世から近代にかけての瀬戸製品などが出土している。

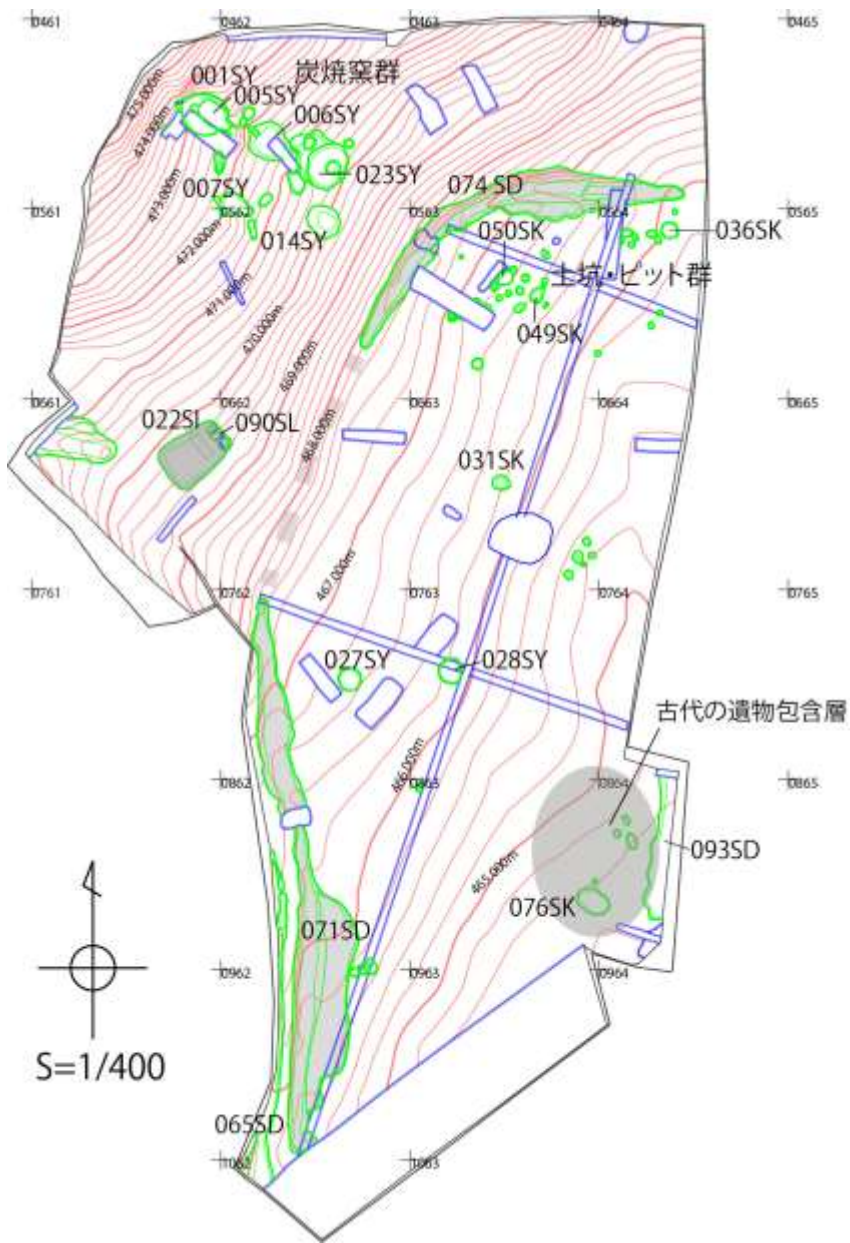
**2面の調査** 2面は、1面の平場に堆積した黒褐色土層を掘り下げて行った。黒褐色土層からは縄文土器と石斧 1 点が出土したが、明確な遺構は検出できなかった。縄文土器は、草創期から前期に属する爪形文や押型文などを確認した。これらは小片で出土しており、土砂などによって流入してきたものと考えている。

**ま と め** 孫田遺跡では、古代を中心とする時代の遺構・遺物を確認した。出土した灰釉陶器や土師器は、黒笹 90 号窯式期から折戸 53 号窯式期に属するもので、竪穴建物を中心に遺構が構築された時期を示す。また、竪穴建物は規模が小さいことや壁溝が存在しない点から、当地で活動するためのスペースだったことが推定される。周辺には孫田遺跡と同様の古代遺構を検出する遺跡が確認されており、今後は、既存調査や周辺遺跡との比較から、古代における山地利用についての検討を行う必要がある。

(鐸木厚太)



調査区図 (1:1,000)



1面



2面

孫田遺跡 1面・2面遺構平面図 (1:400)





調査区2面全景（上が西）



炭焼窯群（南東から）



007SY 焼成室及び煙道部（南東から）



022SI（南西から）



090SL（南西から）



墨書された灰釉陶器



調査区2面全景（上が西）



縄文土器出土状況